

フィラリア症

感染経路

フィラリア感染犬は、血液中に、たくさんのミクロフィラリア(フィラリアの子虫)をもっています。



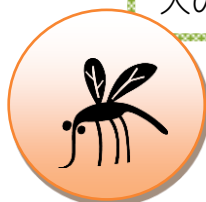
感染犬を、蚊が吸血



蚊の体内で、ミクロフィラリアが発育します。

ミクロフィラリアが、蚊の体内で、感染能力を持つ子虫にまで成長します。

感染子虫を持った蚊が、犬を吸血します。その際、感染子虫が犬の体内に入ります。



成虫は、血液中にたくさんのミクロフィラリアを、産出すると同時に、さまざまな症状を引き起こします。

感染した子虫は、およそ6か月かけて、犬の体内を移動しながら成長し、成虫となって最終的に心臓や肺動脈に寄生ようになります。

予防薬で感染阻止

予防しましょう

* 毎月1回の予防薬の投与や、年1回の注射で、**感染を予防することができます。**

♣ 予防薬は、体内に入ったフィラリアの子虫を駆除して、予防するお薬です。

♣ 錠剤、チュアブル(おやつ)タイプ、スポット(皮膚に液状のお薬をつける)タイプ、注射薬があります。

【予防期間】

* 蚊を見かけるようになってから、蚊が見られなくなるまで。

(通常、5月下旬~11月下旬まで)

感染してしまった場合

感染し、心臓や肺動脈に成虫が寄生するようになると



- > 元気・食欲がない
- > 咳が出る
- > 呼吸が速くなる
- > 腹水がたまってお腹がふくれる
- > 尿が赤くなる

などの症状があらわれます。

放っておくと、死に至ることもあります。

* 毎年、予防薬の投与前にフィラリアに感染していないか検査しましょう。

◆ 少量の血液で感染していないか確認できます。

◆ 万一、感染していた場合、予防薬の投与により具合が悪くなる場合があります。

* 検査は、5月に入ってから、投薬開始時期(5月下旬)までに行いましょう。